

3. 自由記述

Q 保護者の行動で最近、好ましいと感じたこと

* 自由記述回答数 幼稚園教諭 35 件、保育士 43 件

(1) 園との、又は親子のコミュニケーションについて

(幼稚園教諭)

- ・園で取り組んでいる内容や子ども達の様子をクラスだより等でお知らせすると、家庭でもやっている様子を知らせてくれ、共に子育てしていると共感できる。
- ・子育てについて、関心を持ち相談するようになった。
- ・声をかけ合って仲間作りをしようとしている。
- ・幼児の保護者が小学生のいる保護者に小学校の事など聞いているところが好ましいと感じた。
- ・じっくり関われる幼児期に親子の触れあいを大切にしている。
- ・好ましいと思うことは若い保護者の方ががんばり。子どものために今の時間を（行事など）大切に考えている。
- ・子どもと一緒にカエルや虫を採りに行ったりと、子どもとたくさん関わって遊んでいる母。
- ・行事の感想等を、こまめに伝えてくれたり、気軽になんでも相談してくれたり、たくさん話をしてくれる保護者が増えたこと。
- ・核家族化、更に共働き家庭が多い昨今、父母、祖父母が上手にコミュニケーションを図り協力し合って、子どもたちの健やかな成長とともに育てている家庭にとっても感心した。
- ・子育てなどの悩みを話してくれる。
- ・職員に対しての感謝の気持ちを言葉で表現してくれた。お迎えに来たとき、子どものことをギュッと抱きしめスキンシップをとっていた。子どもが「〇〇がんばったよ」や「よーいどん（かけっこの事）で一番になったよ」と言ったとき、たくさん褒めていた。
- ・夏休み中の子どもの様子や成長した喜びを教えてくれる。

(保育士)

- ・子どもに一生懸命向き合っていて、気軽に相談してきたり、話したりしてくれる方がいる。
- ・保護者の仕事が休みの時に園児も保育所を休ませ一緒に過ごす。最近の子供達は長時間保育の子が多く、休んで親と一緒に過ごした子は次の日、笑顔で元気に「楽しかった」と保育士に伝えてくれる。
- ・子どもの成長した面を伝えると、嬉しそうに家庭での様子も保育士に伝え成長を喜び合えること。
- ・友好的なコミュニケーションをとってくれる。
- ・仕事をして疲れている最中でも土曜日や平日の自分の休日を子どもの時間に充てている所は、子どもの精神面の安定の為にも良いと思う。
- ・子どもと一緒に手をつなぎ会話をしながら登所する親子もいて、ほほえましい。
- ・休み明けは特に「先生～聞いて！！〇〇がね・・・」と家庭での成長の様子や出来事を楽し

そうに知らせてきてくれること。

- ・わからない事に対し何度も尋ねて理解しようとする姿勢。
- ・保護者の仕事が休みの時に少しでも早く迎えに来てくれたり、休ませてくれたりするようになった。子どもとの時間を持つてくれるようになった。こちらのアドバイスを聞き入れてもらえたり、事情を説明するときちんと納得してもらえた。
- ・自分の子以外ともコミュニケーションをとっている。(話しかけたりする) 保育園に登園、降園する時、たくさんの会話がある。
- ・送り迎え時に挨拶をすると笑顔で応え一言、二言何気ない会話をしてきてコミュニケーションをとろうと心がけている様子がかがえる。自分の子ども以外にも心配りができ優しく声をかけていた。
- ・家での子どもの様子を細かく伝えてくれる。
- ・お互いの子どもを褒めあったり、叱りあったりしているところ。
- ・担任を認めてくれた。
- ・子どもの事を相談に来てくれて、納得して帰っていくこと。「どうもありがとう」と言ってくれること。
- ・送迎時に園内で子どもにゆったりとした時間を過ごし、他の保護者や園児と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。保育参加(保育士体験)を経験した事で園がより身近に感じ、居心地良く思っているのでは・・・と思う。自分の子以外の子供達と沢山関わってくれて(時には注意をしてくれて)感謝している。

(2) 園の行事に関する事について

(幼稚園教諭)

- ・行事等で保護者同士が声をかけ合い、協力してくれる。
- ・行事などたくさんお手伝い、協力してくれる。家での様子など手紙などで伝えてくれる。
- ・園行事に参加した折、乳幼児と参加している父母の手が、大変そうにみえると手助けしている様子が見え、好ましく思う。
- ・行事等の後片付けなどを積極的に手伝ってくれる。
- ・自分の子中心の親が多い中、園のために協力を惜しまず、役員の仕事をしたり、お手伝い(行事の時)をしている。
- ・保育全般、大変協力的である。
- ・自主的に園庭の植物の管理を手伝ってくれた方がいた。ありがたかった。
- ・子育て支援事業で開催されるイベントなどへの参加が積極的である。(すべての方がそうではありませんが…)
- ・「参観」と言わなくても、日常的に自発的に保育状況の参観に来園し、家での育児に父と共有しあうようにしてきた母親が出てきたこと。
- ・園環境づくりに、自発的に労力提供する人がみられる。
- ・幼稚園の保護者で父母の会を運営している。例年メンバーが変わってゆく中で、今年は一生懸命協力している。
- ・積極的に園の行事に協力してくれる。園で依頼したことに進んで参加してくれたり、良いやり方のアドバイスをしてくれる人が多くなった。

(保育士)

- ・家庭で作っている野菜や花をもってきてくれる。→飾って見せている。
- ・行事の手伝い等すごく協力的で助けられます。物の準備等協力的に行ってくれる。
- ・行事のお手伝いを嫌な顔をせずして頂いた時。土曜日、父母の方々が休みの時など、子どもと一緒にいる時間を優先したり、スキンシップを取っていると教えて頂いた時。
- ・行事に進んで手伝いをかって出てくれたこと。兄弟がいて、上の子が卒園し、学校へ行ってみて、「やっぱり保育園の方が良い」と今まで当たり前かと思ってきた事を感謝してくれた事。
- ・行事に関しては特にお父さんの方がとても協力的である。
- ・保育士一日体験をした父兄と今まで以上に子どもの成長について話し合うようになった。参加した父兄も園や行事に対して積極的になってきていると感じている。
- ・父母会の役員をしてもらえるようになったら保育士への話しかけが多くなった。
- ・園日より、お手紙で保育園の様子をできるだけ伝える様になっている。最近は保護者の方から自主的に手伝いを申し出てくれるなど、とても協力的な行いに感謝している。
- ・行事の時など役員、係でなくても積極的に手伝いをしてくれる。
- ・当たり前の様に行事をこなしていく中で、毎回「先生のおかげで一」と言ってくれること。それだけでうれしい、ありがたい。
- ・行事後に「昨日はお疲れ様でした」等のあいさつやお礼の言葉が聞かれると嬉しく感じる。
- ・行事のあとの連絡帳に感謝の言葉やいたわりの言葉が書かれている。
- ・行事を終えるごとに連絡ノートを通し、感謝の気持ちを伝えてくれるのはとても嬉しい。
- ・行事のあと、「ありがとうございました」と職員にお礼をする。(楽しかった、成長が感じられた・・・等)
- ・いろいろな行事を準備し、行った後に「楽しかった!!」と一筆書いてくれると、とても嬉しい。苦勞が報われたという感じがする。
- ・行事の際には必ずねぎらいの言葉や感想を登降園時や連絡帳でお伝えして下さるので嬉しい。
- ・お帳面でのやりとりで行事についてなど喜んでくれている。

(3) あいさつ・マナーに関することについて

(幼稚園教諭)

- ・自分でケガをした時に園のせいにしたたりする人もいる中、「しょうがないことだから・・・」と理解を示してくれた。また、友だち同士のトラブルでも成長に必要なことだと、大きな心で見守ってくれていた。子育て中の教師に対して同じ立場で(子育ての大変さを知っている)励ましの言葉をかけてくれた。
- ・いつも笑顔であいさつを交わしたり、子どもの家での生活などを話してくれる。
- ・新学期に比べ、日ごとに信頼感をもって下さっているのを挨拶など、短い話の中で感じとれる。
- ・園庭で長時間立ち話をしなくなった。

(保育士)

- ・少しの事でもありがとうございます等の言葉をきちんと言ってくれる。
- ・子どもにきちんと挨拶をさせるようにしている。
- ・お迎えが遅くなった時に「遅くなってすみません」と深々と謝ってくれた。
- ・子ども同士のけんかで手を出し、傷を負い、保育士が「申し訳ありません」と頭を下げた時の親の対応「お互いさまですから気にしないで下さい。それよりうちの子は手を出しませんでしたか？」

(4) その他

(幼稚園教諭)

- ・子どもの良い所も悪い所も見つめて、育児をしている事。
- ・若い母親でありながら、子どもに対しての言葉かけが豊富であるという事。
- ・子どもの欲求に応じているところが良かったと思います。
- ・子育てや教育に対して熱心な方が多い。ただ忙しかったりして（仕事を持っていて）母親の心が抱え込まなければならないケースも多く感じる。

(保育士)

- ・10年前に卒園した保護者とバツタリ会い、“あの当時はきついことを言ってたけど楽しかった。そのおかげで今も父兄同士の交流を今も続けているのよ。ありがとう“と言ってくれ、機会があったら、今の父兄にこの気持ち伝えてあげたいからいつでも連絡してね、と。とてもうれしかったです。

(5) 好ましいと感じたこと以外の回答

(幼稚園教諭)

- ・子ども達が危険な行動をしても見て見ぬふりをしている親が多い（お迎えの親）。して良いこと、悪いことの区別をする親が少ない。
- ・親として最小限すべきしつけ（排泄、はしの持ち方・・・など）は、やはりある程度しつけるべきだと思うけど、3才になっても上手に出来ない子が多くなっている。特に目立つのは虫歯の子が多いことには驚く。もっとスキンシップをして欲しい。
- ・家庭内の生活パターンとルールに対して「親」の育てる意識が薄い。例えば「子どもと相談してみます」とか「子どもに聞いてみます」という言葉が返ってくるが多々あった。保護者と個人面談日を設けて1～2年経過しているうちに・・・(子ども・父親など)のせいにするような発言が出なくなっている。「育てる」と「身につける」と親の考え方が将来の子どもの姿と合わせて考え直してもらえる余裕があるのだという思いを新たにしている。

(保育士)

- 保育園での小さいケガにはたくさん意見を話してくれる一方、お家でケガをした（3針縫うケガ）の消毒など多く保育園に願います。何でも保育園で移されたと話す親がいる。
- 基本的な生活習慣を身につける。（食事・・・マナー、朝食を家で食べる。睡眠・・・夜更かしをさせない・・・等）お迎えの時自分達のおしゃべりに夢中にならず子どもに目を配る。
- 気持ちの面でのフォローがすごく必要となってきた。その中でコミュニケーションをとりながら関わりを深めていかなくてはならない現場と生活面などの手助けも必要となってきた。言葉を通じて信頼関係を築いていきたい。又、あくまでも保護者、職員という一線を引く事も大事と考える。
- 園児が少々マナーの悪い行いをしていた。保護者がそばにいたがそれを注意せずにいた。それを見ていた他の保護者、自分も注意できなかった・・・と大人としての自分の行いを悔いていた。
- 生活リズムが乱れがちなので生活リズムアンケートを年2回行っているが、全保護者が記入してくれている。そのアンケートを参考にして個人面談をして子どものために一緒に考えている。